

型名	回路方式	発振周波数 (kHz)	入力電流 ※1 (A)	突入電流 防止回路	基板/パターン面			直並列運転可否	
					材質	片面	両面	直列	並列
GHA300F	昇圧チョッパ	60 ~ 220	3.3	サーミスタ	ガラスコンポジット		○	○	×
	LLC 共振	90 ~ 180							
GHA500F	昇圧チョッパ	60 ~ 220	5.4	サーミスタ	アルミ / ガラスコンポジット	○	○	○	※2
	LLC 共振	90 ~ 180							
GHA500F-SNF	昇圧チョッパ	60 ~ 220	5.4	サーミスタ	アルミ / ガラスコンポジット	○	○	○	※2
	LLC 共振	90 ~ 180							

※1 入力電流は、AC120V・定格負荷時の値を示します。

※2 並列運転（オプション）で対応可。取扱説明項 5.1 をご参照ください。

GHA

■その他特性データ

その他特性データは、<http://www.cosel.co.jp/dl/> をご参照ください。

1 機能説明 GHA-10

- 1.1 入力電圧範囲 ----- GHA-10
- 1.2 突入電流 ----- GHA-10
- 1.3 過電流保護 ----- GHA-10
- 1.4 過電圧保護 ----- GHA-10
- 1.5 過熱保護 ----- GHA-10
- 1.6 出力電圧可変範囲 ----- GHA-10
- 1.7 出力リップル・リップルノイズ ----- GHA-10
- 1.8 絶縁耐圧・絶縁抵抗 ----- GHA-10

2 直列・並列運転 GHA-11

- 2.1 直列運転 ----- GHA-11
- 2.2 並列運転／冗長運転 ----- GHA-11

3 実装・取付方法 GHA-11

- 3.1 放熱（ディレーティング） ----- GHA-12
- 3.2 絶縁距離 ----- GHA-13
- 3.3 取付箇所 ----- GHA-14
- 3.4 期待寿命・無償補償期間 ----- GHA-14
- 3.5 出力外付けコンデンサ容量 ----- GHA-14

4 接地 GHA-14

5 オプション・その他 GHA-15

- 5.1 オプションの説明 ----- GHA-15
- 5.2 医用規格絶縁クラス ----- GHA-17
- 5.3 その他 ----- GHA-17

1 機能説明

1.1 入力電圧範囲

- AC90～AC264V（詳細は電気仕様参照）でご使用になれます。安全規格申請時の定格入力電圧範囲は「100-240Vac (50/60Hz)」です。
- DC130～DC370Vでご使用になれます。DC入力でご使用の際は、電源故障時の保護のため、外付けにDCヒューズを取付願います。推奨容量を以下に示します。

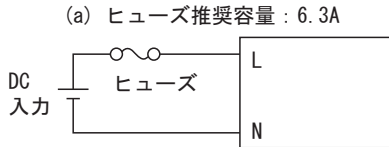


図1.1 DC入力接続方法

- 上記以外を入力電圧を印加した場合、仕様を満足しない動作やハンテング動作、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。UPSやインバータなどの矩形波入力電圧の場合は、当社までお問い合わせください。
- 動的な入力変動の場合、定電圧精度を超えることがあります。特に瞬時停電試験等、入力再投入間隔時間が3秒未満の場合、充分なご評価の上、ご使用願います。

1.2 突入電流

- 突入電流防止回路を内蔵しています。
- 入力にヒューズ、ブレーカ、スイッチなどをご使用される場合は、入力電圧、周囲温度を考慮し、充分なご評価の上、入力突入電流に耐えるよう選定してください。
- 突入電流防止にパワーサーミスタを使用しているため、通電後の入力再投入の際は、電源が充分冷えてから行なってください。
- 突入電流の仕様は、内蔵フィルタ部へのサージ電流（0.2ms 以下）を含んでおりません。

1.3 過電流保護

- 過電流保護回路（定格電流の105%以上で動作、自動復帰）を内蔵しておりますが、短絡・過電流でのご使用は避けてください。
- 間欠過電流モード
過電流保護回路が動作して、出力電圧がある程度低下した場合、出力を断続して平均電流を少なくするように動作します（間欠過電流モード）。

1.4 過電圧保護

- 過電圧保護回路が内蔵されています。過電圧保護回路が動作したときは、入力を遮断し、3分経過後、入力電圧再投入で出力電圧が復帰します。復帰までの時間は、動作時の入力電圧などで変わります。

● 注意事項

出力端子に定格電圧以上の電圧が外部から印加されると、誤動作や故障の原因となりますのでお避けください。モーター負荷ご使用の場合など、可能性が避けられない場合は当社までお問い合わせください。

1.5 過熱保護

- 過熱保護回路が内蔵されています。下記の状態で使用した場合、過熱保護が動作し出力が停止することがあります。動作した場合、入力を遮断して充分冷却後に、入力電圧再投入で出力電圧が復帰します。復帰までの時間は、動作時の入力電圧などで変わります。

- ① 定められた周囲温度を越えて使用した場合
- ② 定格を越える電流を流し続けた場合
- ③ 通風が停止した場合

● 注意事項

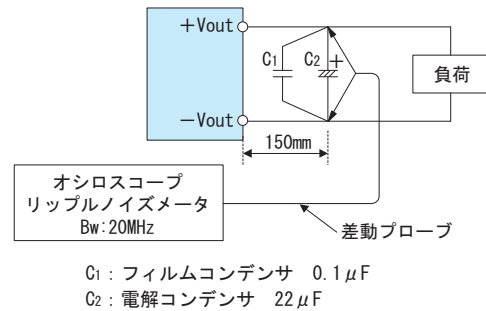
異常動作時の安全停止を意図としたものであり、冷却条件によっては、動作しない場合もありますので、項3 実装・取付方法を遵守願います。

1.6 出力電圧可変範囲

- 出力電圧は、内蔵したボリュームを時計方向に回転すると高くなり、反時計方向で低くなります。

1.7 出力リップル・リップルノイズ

- 測定環境によって出力リップルノイズに影響を及ぼす場合がありますので、図1.2に示す測定方法を推奨します。



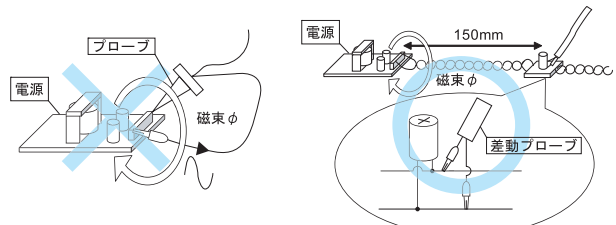
C1: フィルムコンデンサ 0.1μF
C2: 電解コンデンサ 22μF

図1.2 出力リップル・リップルノイズ測定方法

● 注意事項

出力リップル・リップルノイズをオシロスコープで測定する場合に、電源から発生している磁束が、測定用プローブのGND線ループと交差することで、GND線に電圧が生じ正確な測定が出来ない場合がありますので、ご注意ください。

また、電源ご使用の際も、上記磁束の影響を軽減するために入出力線は充分離し、スパイラルケーブルのご使用を推奨します。



悪い例

良い例

図1.3 出力リップル・リップルノイズ測定例

1.8 絶縁耐圧・絶縁抵抗

- 受入検査などで耐電圧試験を行うときは、電圧を徐々に上げてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々に下げてください。特にタイマー付き耐電圧試験は、タイマー動作時に印加電圧の数倍の電圧が発生する場合がありますので、お避けください。
- 入力ー出力間、入力ーFG間および、出力ーFG間の試験を行う場合は、出力とRC/PG/AUX端子を短絡して行ってください。

2 直列・並列運転

2.1 直列運転

■直列運転が可能です。ただし、出力電流は直列接続している電源のいずれか小さい方の定格電流以下とし、電源内部に定格以上の電流が流れ込まないようにしてください。

●注意事項

直列運転の場合は、1台の電源が停止した場合でも、他方の電源の出力電流が停止した電源の内部を流れ、内部部品温度の上昇を生じます。

保護回路等の動作によって電源が停止した場合にも十分な冷却が得られるよう、ご配慮願います。

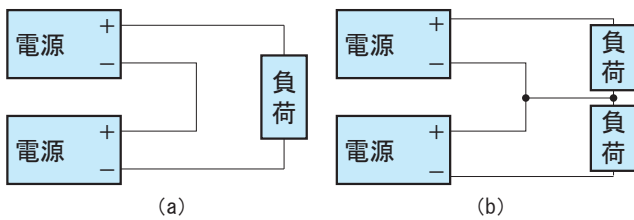


図2.1 直列運転時の接続例

2.2 並列運転／冗長運転

■並列運転

オプション”-P”で並列運転が可能です。標準品での並列運転はできません。仕様が異なりますので、項5 オプション・その他をご参照願います。

■冗長運転

以下の配線をするることによって、冗長運転が可能です。

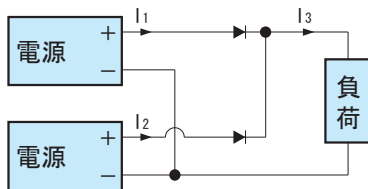


図2.2 冗長運転例

●注意事項

出力電圧のわずかな違いにより、 I_1 、 I_2 の値はアンバランスになります。 I_3 の値が電源装置1台分の定格電流値を超えないようにしてください。

$$I_3 \leq \text{定格電流値}$$

故障モードを想定し、充分なご評価の上、ご使用願います。活線挿抜はできません。

3 実装・取付方法

■冷却方法の特徴

●GHA500F

■冷却方法

伝導冷却、強制通風、自然空冷の3通りの冷却が可能です。

※冷却方法を組み合わせることで、構造設計の自由度が向上します。

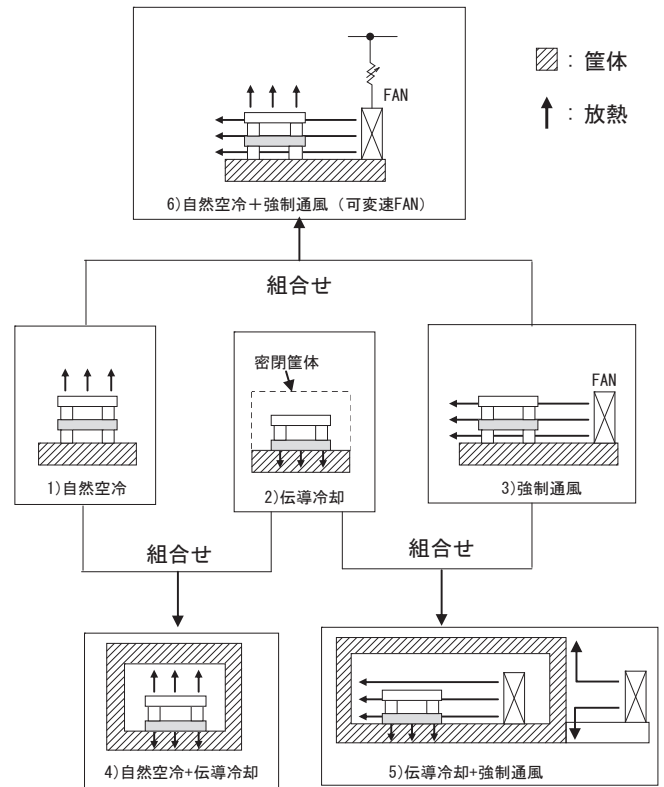


図3.1 冷却方法組合せ一覧表

●GHA300F

■冷却方法

強制通風、自然空冷の2通りの冷却が可能です（図3.1の1）、3）、6）の冷却方法）。

●注意事項

■取付においては、安全にご使用いただくために以下の考慮が必要です。

①放熱（ディレーティング）：項3.1参照

- ・電源は動作する上で熱を生じます。
- ・環境、入力条件で使用できる条件が異なります。
- ・電源が正常に動作可能である判断をするために必要な温度測定箇所（ポイント）と上限温度を表3.1に示します。
- ・実装部面は高温になりますので、特に材質の耐熱温度及び接触によるやけどにご注意願います。

②絶縁距離：項3.2参照

- ・電源は一次電位を有します。感電、漏電を防止し、安全規格要求事項を満足するために絶縁距離（沿面・空間距離）を確保する必要があります。

3.1 放熱（ディレーティング）

■ご使用にあたっては、表3.1に示すポイント温度以下となるようにしてください。

実際のご使用では複数の放熱方法が組み合わせられるため、ご使用可否の判断はポイント温度上限値でご判断願います。参考として単独冷却方法におけるディレーティングを図3.4～3.9に示します。

ポイント上限温度での期待寿命は3年です。ご使用温度を低減することで期待寿命を延ばすことができますので、詳細は項3.4をご参照ください。

■測定ポイント位置

測定ポイントは導電部を含みます。温度測定の際には、感電や漏電に注意してください。詳細は、当社までお問い合わせください。

GHA

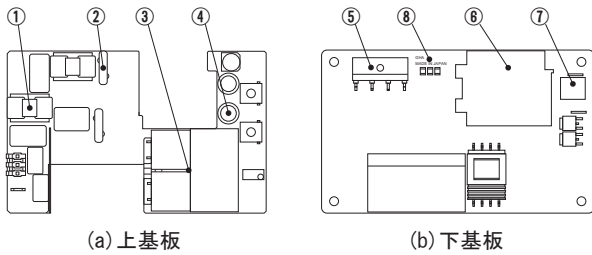


図3.2 ポイント温度測定箇所

表3.1 ポイント温度上限値一覧

ポイント	部品名	品番	上限温度 [°C]		備考
			500F	300F	
①	ラインフィルタ	L101	115	115	
②	バリスタ	SK101	76	76	
③	入力電解コンデンサ	C106	89	89	
④	出力電解コンデンサ	C506	87	87	
⑤	整流器	SS11	120	120	ケース温度
⑥	トランス	T11	110	110	
⑦	出力チョーク	L51	115	115	
⑧	アルミベースプレート	-	※	-	

※伝導冷却におけるベースプレート温度ディレーティング（図3.7）参照

●注意事項

図3.3のように、電源が密閉空間で使用された場合、冷却が充分でない可能性がありますので、表3.1のポイント温度をご確認の上ご使用ください。

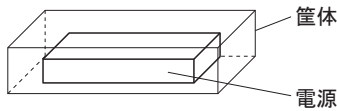


図3.3 電源取り付け例

●GHA500F

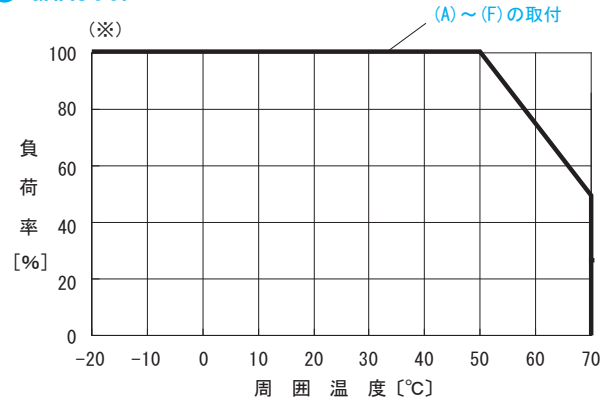


図3.4 強制通風における動作周囲温度ディレーティング（参考値）

※ 強制通風仕様における最大電力は図3.5参照

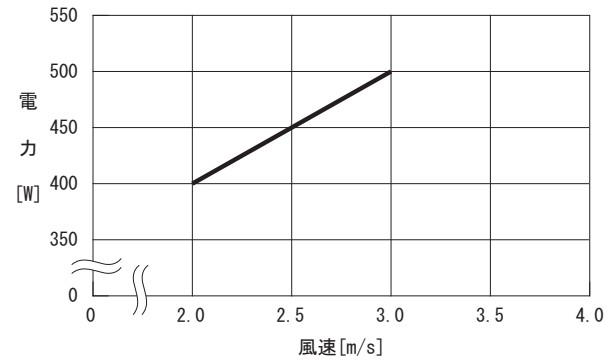


図3.5 風速条件による最大出力電力

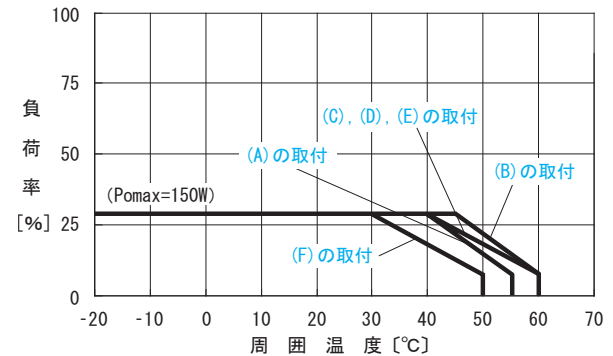


図3.6 自然空冷における動作周囲温度ディレーティング（参考値）

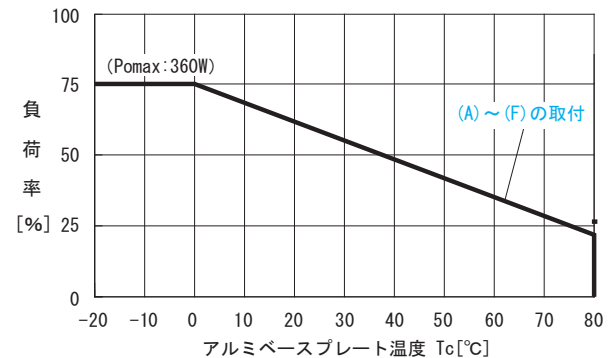


図3.7 伝導冷却におけるベースプレート温度ディレーティング（参考値）

● GHA300F

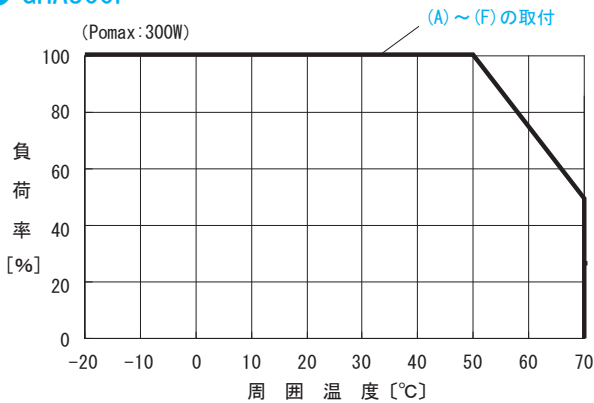


図3.8 強制通風における動作周囲温度ディレーティング (参考値)

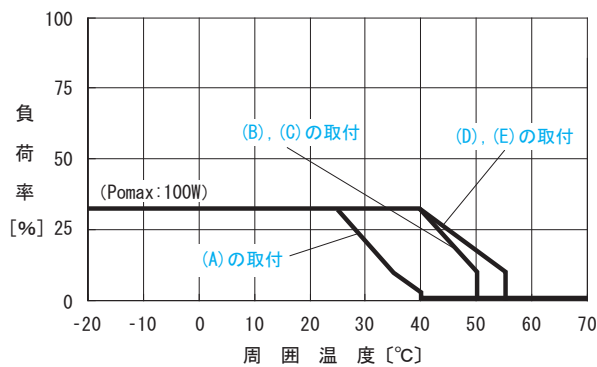


図3.9 自然空冷における動作周囲温度ディレーティング (参考値)

■ 入力電圧によるディレーティング (GHA500/300F共通)

入力電圧によるディレーティング特性を図3.10に示します。各冷却方法におけるPomaxに対して、適用願います。

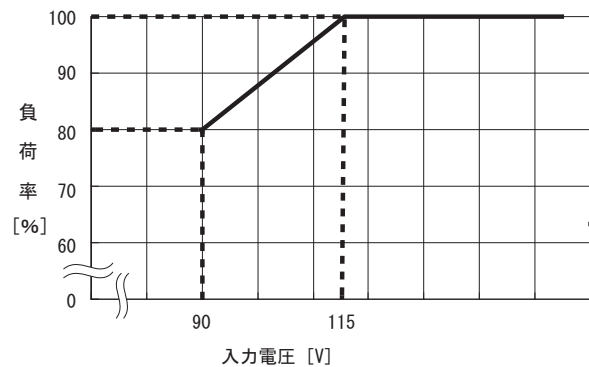


図3.10 入力電圧によるディレーティング

■ 取付方法

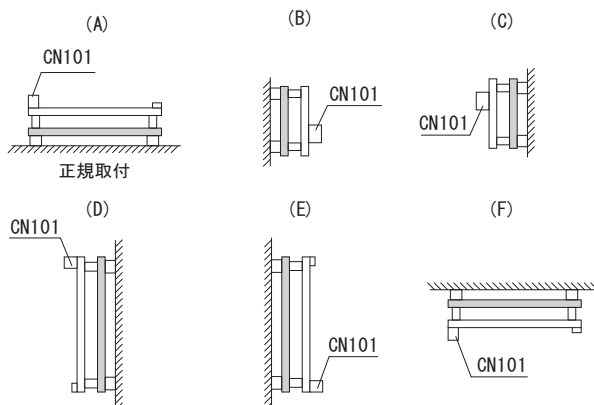


図3.11 取付方法

3.2 絶縁距離

■ ご使用にあたっては、 d_1 、 d_2 寸法を守り、GHA300Fの d_2 間には5mm以上のスペーサを入れてください。 d_1 、 d_2 寸法未滿となる場合には、電源と金属シャーシ間に基礎絶縁を満足する絶縁紙を挿入してください。

d_1 、 d_2 寸法は、絶縁のために必要な距離であり、冷却条件を満足するものではありません。冷却条件については、項3.1をご参照ください。

● GHA500F

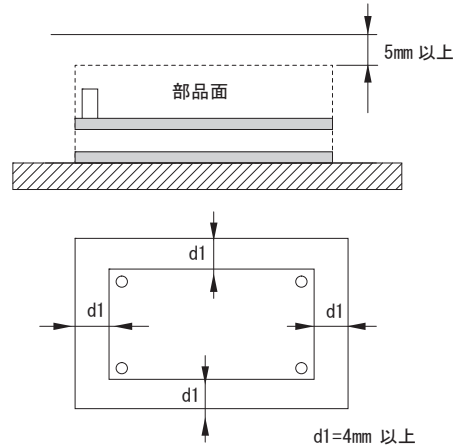


図3.12 取付方法

● GHA300F

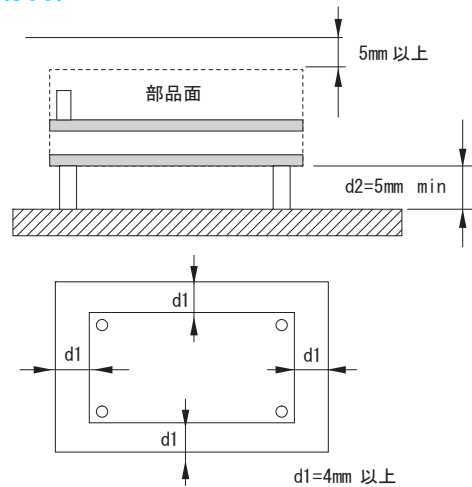


図3.13 取付方法

3.3 取付箇所

■電源の取付ねじ径は、3mmを使用してください。ハッチング部範囲は、取付金属部の許容範囲を示します。

● GHA300F, GHA500F

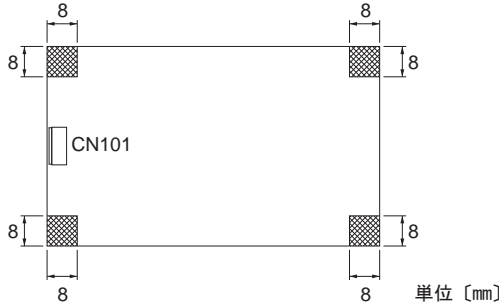


図3.14 取付箇所

- 表部品面側から金具で取り付けする場合は、実装部品との接触がないよう充分にご注意願います。
- 本製品は、面実装部品を使用しています。基板にねじれ、曲がり等の応力が加わる取付方法（圧入ブッシュ等）はお避けください。

3.4 期待寿命・無償補償期間

■期待寿命

表3.2 期待寿命 (GHA500F-□)

冷却方法	取付	平均周囲温度 (年間)	期待寿命	
			$l_o \leq 75\%$	$75\% < l_o \leq 100\%$
自然空冷	A, C, D	$T_a = 35^\circ\text{C}$ 以下	10年	6年
		$T_a = 40^\circ\text{C}$	7年	4年
	B	$T_a = 45^\circ\text{C}$	10年	7年
	E	$T_a = 30^\circ\text{C}$ 以下	10年	7年
		$T_a = 35^\circ\text{C}$	7年	5年
F	$T_a = 30^\circ\text{C}$	10年	7年	
強制通風	A, B, C, D, E, F	$T_a = 40^\circ\text{C}$ 以下	10年以上	10年以上
		$T_a = 50^\circ\text{C}$	10年以上	10年以上

表3.3 期待寿命 (GHA300F-□)

冷却方法	取付	平均周囲温度 (年間)	期待寿命	
			$l_o \leq 75\%$	$75\% < l_o \leq 100\%$
自然空冷	A	$T_a = 30^\circ\text{C}$	10年以上	10年以上
	B, C	$T_a = 45^\circ\text{C}$	10年以上	7年
		$T_a = 45^\circ\text{C}$	10年以上	10年以上
	E	$T_a = 40^\circ\text{C}$ 以下	10年以上	7年
$T_a = 45^\circ\text{C}$		10年以上	6年	
強制通風	A, B, C, D, E, F	$T_a = 40^\circ\text{C}$ 以下	10年以上	10年以上
		$T_a = 50^\circ\text{C}$	10年以上	10年以上

●注意事項

項3.1に示すポイント温度③、④（電解コンデンサ）で、ご使用条件での推定寿命の算出が可能です。詳しくは当社までお問い合わせください。

■無償補償期間

表3.4 無償補償期間 (GHA500F-□)

冷却方法	取付	平均周囲温度 (年間)	補償期間	
			$l_o \leq 75\%$	$75\% < l_o \leq 100\%$
自然空冷	A, C, D	$T_a = 35^\circ\text{C}$ 以下	5年	5年
		$T_a = 40^\circ\text{C}$	5年	3年
	B	$T_a = 45^\circ\text{C}$	5年	5年
	E	$T_a = 30^\circ\text{C}$ 以下	5年	5年
		$T_a = 35^\circ\text{C}$	5年	4年
F	$T_a = 30^\circ\text{C}$	5年	5年	
強制通風	A, B, C, D, E, F	$T_a = 40^\circ\text{C}$ 以下	5年	4年
		$T_a = 50^\circ\text{C}$	5年	3年

表3.5 無償補償期間 (GHA300F-□)

冷却方法	取付	平均周囲温度 (年間)	補償期間	
			$l_o \leq 75\%$	$75\% < l_o \leq 100\%$
自然空冷	A	$T_a = 30^\circ\text{C}$	5年	5年
	B, C	$T_a = 45^\circ\text{C}$	5年	5年
		$T_a = 45^\circ\text{C}$	5年	5年
	E	$T_a = 40^\circ\text{C}$ 以下	5年	5年
$T_a = 45^\circ\text{C}$		5年	4年	
強制通風	A, B, C, D, E, F	$T_a = 40^\circ\text{C}$ 以下	5年	4年
		$T_a = 50^\circ\text{C}$	5年	3年

※ 伝導冷却仕様の無償補償期間は測定ポイントの上限度で3年。

3.5 出力外付けコンデンサ容量

■負荷電流を急激に変化させた（動的負荷変動を繰り返す）場合、出力安定度向上のために、出力端子（負荷側）にコンデンサの接続を推奨します。

表3.6 出力側外付けコンデンサ推奨容量[μF]

モデル	出力電圧 [V]	推奨容量 [μF]
GHA300F-12 GHA500F-12	$10.8 \leq V_o \leq 13.2$	2,200 ~ 22,000
GHA500F-15	$13.5 \leq V_o \leq 16.5$	2,200 ~ 10,000
GHA300F-24 GHA500F-24	$21.6 \leq V_o \leq 26.4$	3,300 ~ 8,800
GHA500F-30	$27.0 \leq V_o \leq 31.5$	3,300 ~ 8,800
GHA300F-48 GHA500F-48	$43.2 \leq V_o < 51.0$	0 ~ 1,000
	$51.0 \leq V_o \leq 52.8$	0 ~ 120
GHA500F-56	$52.0 \leq V_o \leq 56.0$	0 ~ 120

●注意事項

負荷電流を急激に変化させると、電源の応答性から、出力電圧の低下等、仕様を満足しない場合があります。推奨容量を守り充分なご評価の上、ご使用願います。推奨容量を超える容量を接続した場合、出力停止または、不安定となる恐れがありますので、ご注意願います。

4 接地

■電源取付の際は、入力FG端子または取付穴FG（2箇所以上）を必ず筐体の安全アースに接続してください。

5 オプション・その他

5.1 オプション

● -J1

■入力コネクタをVHコネクタ（メーカー：J.S.T）に変更したタイプです。

● -R3, -SNF

■以下の付属機能を使用することができます。

■専用ハーネスを用意しています。オプションパーツをご参照ください。

■AUX1出力(12V±10% -R3 : 1.0A, -SNF : 0.5A)

- ・強制通風用ファンや付属回路用の電源として、CN501からAUX1(12V)を出力します。
- ・AUXは、他回路（入力、出力、FG、RC、PG）と絶縁されています。
- ・電源内部回路の故障や動作不良の原因となりますので、定格電流を超える出力を取り出さないでください。
- ・DCDCコンバータ等、起動時に定常時の数倍の電流が流れることがありますので、充分なご評価の上ご使用願います。

■AUX2出力(5V1A)

- ・リモートコントロール回路および付属回路用の電源として、CN501からAUX2(5V±5%, 1.0A)を出力します。
- ・AUXは、他回路（入力、出力、FG、RC、PG）と絶縁されています。
- ・電源内部回路の故障や動作不良となるので、1.0A以上の電流を取り出さないでください。
- ・DCDCコンバータ等、起動時に定常の数倍の電流が流れることがありますので、充分なご評価の上ご使用願います。
- ・負荷電流を急激に変化させた（動的負荷変動を繰り返す）場合、出力安定度向上のために、負荷側にコンデンサの接続を推奨します。

表 5.1 AUX2 外付けコンデンサ推奨容量 [μF]

出力電圧	コンデンサ容量
	GHA300/500F
5V (AUX2)	330 ~ 560

●注意事項

負荷電流を急激に変化させると、電源の応答性から、出力電圧の低下等、仕様を満足しない場合があります。

推奨容量を守り充分なご評価の上、ご使用願います。

推奨容量を超える容量を接続した場合、出力停止または、不安定となる恐れがありますので、ご注意願います。

■アラーム

・PGアラームの動作説明を表 5.2、内部構成回路を図 5.1 に示します。

表 5.2 アラーム (PG 信号) の説明

アラーム出力の条件	アラーム出力
PG 定格出力電圧の低下または停止したときPG, PGG端子から出力します。 ※出力が過電流(間欠過電流)状態のとき不定状態となります。	オープンコレクタ方式 Good : Low (0-0.5V 10mA max)
	Bad : High or Open (40V 0.5mA max)
	Tr : 40V 10mA max

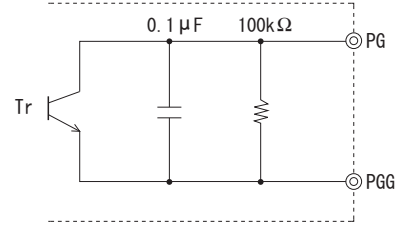


図 5.1 PG 信号の内部回路

■リモートコントロール

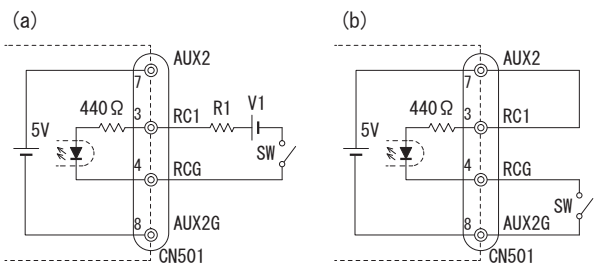
- ・出力電圧のオンオフは、CN501 へ信号を入力することで可能となります。仕様を表 5.3 に、接続方法 (例) を図 5.2 に示します。
- ・リモートコントロール回路 (RC1、RCG) は、入力 / 出力 / FG / AUX / PG から絶縁されています。

・リモートコントロール使用時の注意点を以下に示します。

- ① RC に電流を流し込むことで -R3 は出力をオン、-SNF は出力をオフします。
- ② RC 流入電流は、5mA typ (30mA max) です。
- ③ リモートコントロールで出力をオフした場合、12V AUX は停止します。
- ④ リモートコントロールで出力をオフした場合、PG 信号は "High" になります。
- ⑤ RC1-RCG 間に表 5.3 に示した以外の電圧 / 電流を印加すると出力電圧が正常に出力されないことがあります。
- ⑥ 逆接続した場合、内部部品が破損する恐れがあるため、注意してください。

表 5.3 リモートコントロールの仕様

図5.2 回路接続例	-R3	-SNF
SWロジック	出力オン SW ショート (3mA min)	SW オープン (0.1mA max)
	出力オフ SW オープン (0.1mA max)	SW ショート (3mA min)
オプションハーネス	H-SN-34 (またはH-SN-35)	



(例 V1:5V R1:270Ω)

図 5.2 回路接続例

※外部電源 (V1) が 4.5 ~ 12.5V の場合は電流制限抵抗 R1 は不要です。12.5V を越える場合は、電流制限抵抗 R1 を挿入してください。

R1 推奨値 (Ω)	Ri:440 [Ω]
$\frac{V1 - (1.1 + Ri \times 0.005)}{0.005}$	

● -SNF

- シャーシカバーに強制空冷用のファンを追加したタイプです。
- 油等がかかる環境下での仕様及び保管は、故障や性能劣化の恐れがあるため避けてください。
- ディレーティング特性
ご使用にあたっては図 3. 10 に示す入力電圧によるディレーティングを満足した上で、図 5. 3 に示す温度測定ポイント A が表 5. 4 に定める温度以下であることを確認してください。参考として動作周囲温度によるディレーティングを図 5. 4 に示します。

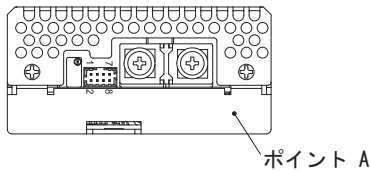


図 5. 3 温度測定ポイント A

表 5. 4 ポイント A 上限温度

温度測定点	動作周囲温度	
	50°C	70°C
ポイント A	65°C以下	78°C以下

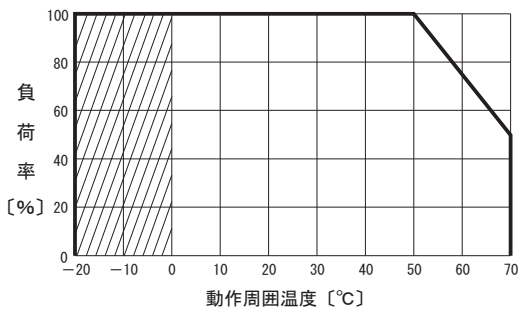


図 5. 4 動作周囲温度ディレーティング (参考値)

- 定格電流を超える出力が5秒以上継続した場合は出力が停止します。入力を遮断し、3分後に再投入で復帰します。
- ファンの推定寿命
使用条件によってファンの推定寿命 (R(t)=90%) は図 5. 5 のようになります。電源の動作周囲温度は冷却用に吸い込む空気温度 (出力端子側) となります。配線の発熱にご注意ください。また、ファン風量低下及びファン停止した場合は出力を停止します。

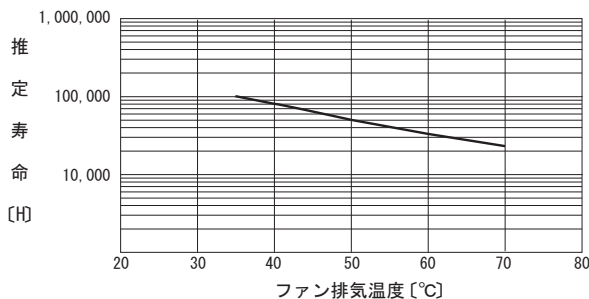


図 5. 5 ファン推定寿命

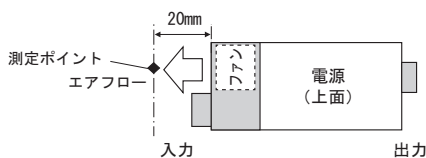


図 5. 6 ファン排気温度測定ポイント

■取付方法

使用するねじは、内部部品との絶縁距離を保つため、ねじ挿入長さは電源の外側から 6 mm max とします (図 5. 7 参照)。質量を考慮して確実に固定してください。

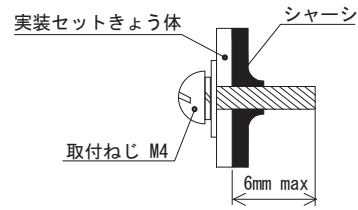
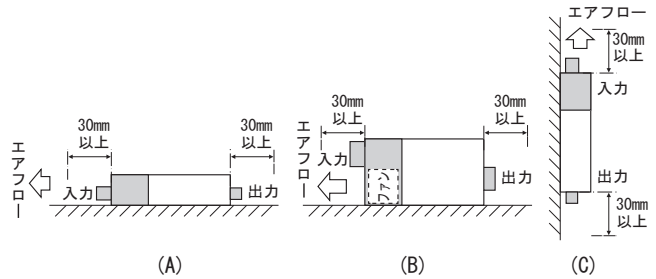


図 5. 7 取付ねじ

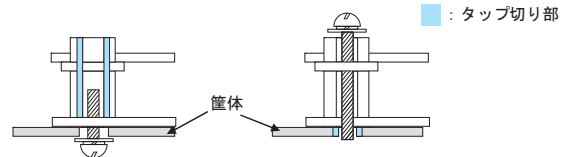
- 強制空冷用のファンを内蔵しているため、冷却用の空気の流れを妨げないように通風孔部及びファン取り付け側は30mm以上の空間を設け、ふさがないようにしてください。



- 埃の多い場所で使用すると故障の原因になることが考えられます。システムの空気取入口にエアフィルタを設けるなどの対策をお願いします。

● -T3

- 製品取付穴を M3 タップ品に変更したものです。筐体からのネジ締めが可能です。



(a) T3仕様 (製品取付穴にタップ有) (b) 標準仕様 (製品取付穴にタップ無)

図 5. 8 ねじ取付イメージ

● -P

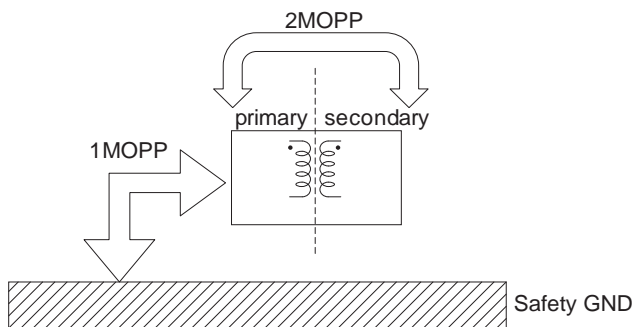
- 並列運転を可能にしたものです。
- 1台あたりの定格電力は、最大出力電力の90%となります。
- 並列台数分累積された入出力仕様となりますので、2台を基本として、充分なご評価の上、ご使用願います。

● 注意事項

- ・ 並列運転する電源相互の出力電圧差は0.1V以下としてください。
- ・ 負荷バランスおよび出力配線インピーダンスで電圧が降下しますので、充分なご評価の上、ご使用願います。
- ・ 並列運転動作は、出力電圧が高い電源がマスター電源となり、電圧差に応じて最大出力電力の90%まで出力します。スレーブ電源はマスター電源の不足分を出力する動作をします。
項3.1 放熱、項3.4 期待寿命・無償保証期間については、マスター電源でご評価の上、ご使用願います。
- ・ 並列運転は、負荷の変動（スレーブ電源の過渡的な動作等）により、出力電圧が変動する場合があります。また、電源発振周波数の差異により、数kHzのビートノイズを生じることがあります。充分なご評価の上、ご使用願います。
起動、停止等過渡状態には、適切なマスク時間を設定する等、充分なご評価の上、ご使用願います。
- ・ 強制空冷でのみ使用できます。
- ・ 入力 AC115V 以上でご使用ください。

5.2 医用規格絶縁クラス

- GHAシリーズは2MOPPに適合しています。



5.3 その他

- 入力を遮断後も数分間、電源内部に高い電圧が残ることがありますので、保守時などには注意してください。
- 本製品は、面実装部品を採用しています。基板へのねじれ、たわみなどのストレスは、故障の原因となりますので取扱いには充分注意してください。起動、停止等過渡状態には、適切なマスク時間を設定する等、充分なご評価の上、ご使用願います。

取付上の注意点

- ① 取付穴は、全て固定してください。
 - ② 基板は、取付面に平行に取付けてください。
 - ③ 落下などの衝撃を加えないでください。
- 通電中、通電停止直後は電源内部が高温になっていますので、取扱いには充分注意してください。